

第2学年国語科 学習指導案

指導者 根本 亮輔

- 1 単元名 物語のリライトを通して作品の特徴を発見し、表現の仕方や特色について評価しよう
（「デューク」江國 香織）

2 単元の目標

- （1）文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解することができる。
〔知識及び技能〕(1)エ
- （2）文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価することができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)ウ
- （3）言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。
「学びに向かう力、人間性等」

3 本単元における言語活動

条件に基づいて物語をリライトし、オリジナル作品との比較を通して、作品の表現の仕方や特色について評価する。
（関連：〔思考力、判断力、表現力等〕B(2)イ）

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 ((1)エ)	①「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。 (B(1)ウ)	①リライトした物語とオリジナル作品との比較を通して、作品の表現の仕方や特色について粘り強く理解を深める中で、自らの学習を調整しようとしている。

5 単元について

（1）教材観

本教材は、「私」の視点から飼犬デュークの死について語る一人称の小説作品である。悲しみにくれる「私」の前に現れた少年は、「私」の語るデュークのイメージと大きく重なるため、まるで少年＝デュークであるかのように読者に感じさせる内容となっている。一方で、少年がデュークの化身であるということは本文には明示されておらず、少年をどのような存在と解釈するかは、あくまで少年をデュークと重ねてしまう「私」の一人称の語りによるものである。言い換えれば、本教材は一人称の語りを採用しているために、少年とデュークの同一化が断定できず、解釈を読者に委ねる性質をもつ作品である。この点から本作品は、一人称の語りという表現方法がどのような効果をもたらすのかについて学習者が考える上で、適した教材である。

（2）生徒観

生徒はこれまで、「とんかつ」（作品の設定について批評文を書き、作品について評価する単元）及び「羅生門」（原典と読み比べて作品の解釈を深める単元）を教材として、近現代の文学的文章について学んできた。過去の単元の事後アンケートでは、半数の生徒が「文学的文章（物語・随筆）など」について学ぶのが好きだ（＊％）と回答している一方、「登場人物の心情を捉えること」（＊％）、「物語に対して意見や感想、疑問を持つこと」（＊％）等に苦手意識をもつ生徒が多い。また、「とんかつ」を扱った際の事後アンケートでは、「身につけることができた学びはなんですか」という問いに対して、「一人称と三人称の違いや、その効果などについての理解」と回答した生徒（＊％）の割合が低い結果となった。本学級の生徒は、語りや心情理解などに関する基礎的な読解力およびそれらを言語化し共有するスキルが十分身に付いているとはいえず、個人的な解釈を相対化し普遍的な理解へつなげることに課題があると言える。

（3）指導観

本単元は、「なぜ「私」による一人称の語りを採用しているのか」という学習課題を設定する。学習指導要領解説によれば、「文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色は、いずれも、何が書かれているかという内容ではなく、内容がどのように書かれているかという形式に関わっている。」とあるため、ここでは「語り」を表現の仕方、表現の特色に含まれる要素と捉えることと

する。

作品を評価していくために、本文を異なる人称に書き換え、オリジナル作品と比較する言語活動を設定する。第1次では、語りに関する既習の基礎知識について振り返りつつ、「私」の置かれた状況及び心情を中心に内容を理解することを、第2次ではデュークは少年であると断定できるのか考えていくことを目的とする。その上で、「私」の一人称によって語られることをどのように評価できるのかについて、各自の考えをまとめ、共有することを総括とする。

授業においては、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す視点から、発問の際には必ず個人で考え、課題に取り組む時間と、その成果をペアやグループで共有し、より深めていくための時間を設ける。また、生徒の考えや課題に対する進捗などを、ICT 端末を活用して適宜全体で共有し、他の生徒の参考となるような機会を積極的に設ける。

6 単元の指導計画（7時間扱い）

○は指導に生かす評価場面、◎は記録に残す評価場面

次	時	学習内容・活動	知	思	態	評価及び評価方法等
1	1 ～ 4	- 単元を通して語り手の人称について考えることを予告し、学習の見通しをもつ。 - 本文を通読してあらすじを確認し、感想や疑問点を共有する。 学習課題 「私」の置かれた状況と心情の変化を捉えるには、どのような表現に注目すればよいだろう。 - 一人称の語りについて確認し、本文が「私」の一人称視点から語られていることについて理解する。 - 本文の内容を場面ごとに整理し、それぞれの場面における「私」の言動と地の文章の表現に注目しながら、心情の変化について確認する。 - 個人で確認し、ペアやグループで相談した後、ICT端末を活用して全体で共有する。 - 冒頭の「デュークが死んだ」と、終盤の「デュークはもういない」の違いについて話し合い、考えを深める。 まとめ ・びよびよお泣きながら ・蚊のなくよう涙声で ・泳いだあとの～舌にうれしかった ・デュークも、落語が好きだったのだ ・デュークが～何をしているのだろう ・私は～もどってきていた ・薄青い夕暮れに、 ・なつかしい、深い目が ・私があんなに驚いたのは などの情景描写や言動の表現に注目すると、状況と心情の変化を捉えられる。				○ 態①：作品に対する感想や疑問点等、自分の考えをまとめようとしているかを見取る。難しい生徒に対しては、これまでの授業ノートを参照させ、物語を読む上でのトピックを想起させる。 【コメントペーパー】 ・心情が描かれた表現について、例示してクラス全体で確認してから、個人で表現を確認させる。難しい生徒には、個別に声かけをしたりペアの意見を参考にさせたりする。 ○ 知①：類似した文が異なる文脈の中に置かれることで、異なる意味が形成されることを理解しているかを見取る。できていない生徒に対しては、前後の文脈の違いに注目するよう助言する。 【小テスト】

2	5	目標:語りの人称を書き換えオリジナルと比較し、「デューク」が「私」の視点から語られる意味について考える。 ・本時の学習課題を確認し、学習の見通しをもつ。 学習課題 「デューク」が「私」の視点から語られることで、どのような効果が生まれるのか。 ・一人称と三人称の違い、三人称の分類について、資料を基に振り返る。 ・作品の後半をそれぞれ指定された条件に合わせて書き換え、人称に着目してオリジナル作品と比較し、気付いたことをワークシートにまとめる。 ・ペアで互いの成果物を確認し、ワークシートにまとめた各自の気づきについて意見交換をする。 ・ワークシートにまとめた内容についてICT端末を活用して、クラス全体に紹介し、互いに共有し合う。その際、自分の意見の変容について意識し、新たな考えが生じた場合、それも追記する。 ・本時を振り返る。			○ 思①：語りの人称が異なることで、本文全体のニュアンスが変化することを理解しているか見取る。難しい生徒に対しては、個別に声かけをする。【観察】 ◎ 態①：リライトした物語とオリジナル作品との比較を通して、作品の表現の仕方や特色について粘り強く理解を深める中で、自らの学習を調整しようとしている。【観察・ワークシート】 ・語りの人称によって読み手に与える印象が変わることを確認し、次時で「なぜ「デューク」は「私」の一人称視点の語りを採用しているのか」について、考えることを予告する。 ・初発の感想の中に以下の内容が含まれている場合は、関連事項として生徒に提示する。 (1)「デューク」＝「少年」と断定している内容 (2)「デューク」≠「少年」と断定している内容
---	---	---	--	--	--

6 ・ 7	・ワークシートを複数取り上げて全体で共有し、オリジナル作品の表現の効果について確認する。 ・確認した表現の意図を踏まえたうえで、「デューク」が「私」の一人称視点の語りを採用していることの価値について、自分の考えをまとめる。 まとめ 少年とデュークの異質/同質性は、「私」の主観や認識に基づいて語られており、少年とデュークの関係性について不確定な要素を残したまま物語が終わるため、読者の多様な解釈を引き出している。 ・「デューク」同様不確定な要素を残して終わる物語として「晴れた空の下で」を読み、最初と最後の同一の表現「わし（ら）は最近～」について考える。 ・単元を通して学んだことを振り返る。 振り返り 一人称視点の語りは、語り手となる登場人物の主観や認識に基づいており、読者はその人物のフィルターを通して情報を受け取っている。	◎	◎	思①：文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。 【ワークシート】 知①：文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 【小テスト】 ・自身の初読の感想と読み比べて、考えが深まったところ、変化したところに注目するよう促す。
-------------	--	---	---	--